

N P O 防 災 千 葉

特定非営利活動法人 防災千葉
 千葉市中央区本町 1-6-24 (渡辺コーポ 102号)
 E-mail bosai@bosai-tiba.jp
 Homepage <http://www.bosai-tiba.jp>
 Fax 043-301-3820

■ <理事長のあいさつ>

皆さま、令和となって初めての新年を心新たにお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もすでに3月の声を聞く早春の候となりましたが、本年最初の「会報」の発刊にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

まずは、新春 1月 21日に開催しました「令和元年度防災関係建設技術研修会」につきましては、年頭のお忙しい中、多くの皆様のご参加を賜り誠に有難うございました。気候変動の影響による自然災害の頻発・激甚化が現実のものとなっている今日、「さらなる防災意識の向上」に資する実りの多い研修会になったものと思っております。また、本県では戦後最大の災害となった「4・5・災」に関する記録や体験談を取りまとめ、伝承していく作業を「ちば河川交流会」(千葉県河川協会)と当 NPO が協働して取り組んでおりますが、被災から 50 年の節目を迎えた本年の研修会で、その成果の一部を発表させていただきました。ここにご講演をいただいた講師の皆様には主催者を代表して心より御礼を申し上げます。



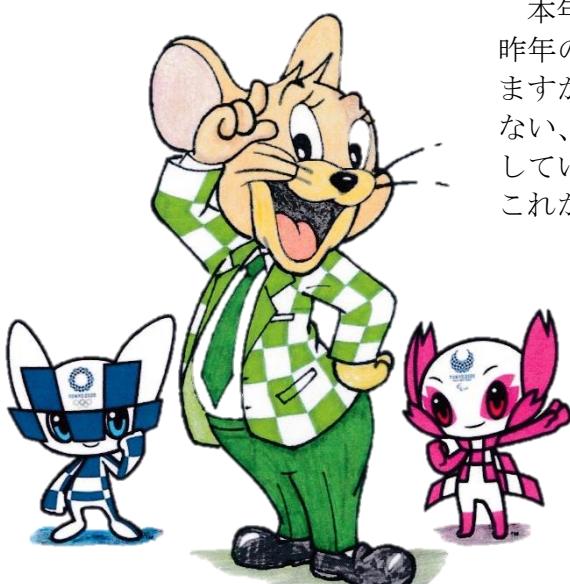
増岡 洋一 理事長

さて、昨年を振り返ってみると、15号、19号、21号と一連の台風により全国各地で甚大な被害が相次いで生じました。千葉県においても、9月9日に関東を直撃した台風15号では本県の観測史上一位となる57.5メートルの最大瞬間風速を観測した千葉市をはじめ県内各地で猛烈な暴風が吹き荒れ、大規模で長期にわたる停電や6万戸を超える住宅被害が生じました。また、19号では市原市で竜巻被害が、さらに21号に伴う10月25日の記録的豪雨では、一宮川本川上流部の水上観測所において12時間で360ミリの雨量が観測されるなど、一宮川をはじめ県内の19河川が溢水し広範囲な浸水被害が生じたところです。そして同時に線状降水帯に沿うように県内各地で発生した土砂災害は150か所余にのぼるなど激甚な災害となりました。

ここに昨年来より一連の災害対応に昼夜を問わず懸命に尽力されている現職行政の皆様の労をねぎらい敬意を表すとともに、被災地の一日でも早い復旧・復興を切に願うものであります。

本年の干支である「子年」は歴史的に見て、一昨年の「戌年」、昨年の「亥年」に比べ災害が比較的少ない年であると謂われていますが、ここ数年の自然災害を見ておりますと、過去に経験のない、また、リスクが決して高くないはずの地域でも突然発生している事例もあり、安易な安心は禁物ではないでしょうか。これから災害は「いつでも、どこでも発生してもおかしくない」という意識を常に忘れることなく、災害に関する知識と一緒に備えておくことが肝要ではないかと思っております。

最後に、本年もNPO防災千葉は、防災に関する各種事業に精力的に取り組んでいくとともに、今般の災害に関する情報提供など防災行政の一助となるよう引き続き活動してまいりますので皆様方の変わらぬご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。



干支の挿絵 NPO会員 御園生 孝さん 画

NPO防災千葉 理事長 増岡洋一

■ <令和元年度 防災関係建設技術研修会の開催>

令和2年1月21日に「プラザ菜の花」において「令和元年度防災関係建設技術研修会」を開催しました。この研修会は千葉県道路協会、千葉県河川協会、全国治水砂防協会千葉支部との共催によるもので、今年度はNPO防災千葉からの参加者73名を含め総勢132名の参加がありました。

開会に当たりNPO防災千葉の増岡洋一理事長から挨拶があり、続いて来賓を代表して県の災害・建設業担当部長 神作秀雄様から御挨拶をいただきました。

次に当NPOの会員でもある滝浪善裕様、小池敏夫様が、公益社団法人全国防災協会から災害復旧技術専門家として認定、登録されたことについて、県土整備部河川環境課長の山口浩様から紹介がありました。

災害復旧技術専門家は災害復旧の制度を熟知し、復旧のための工法等にかかる高度な技術を有する者であり、災害時に地方公共団体の求めに応じて、現地で技術的な支援、助言等を行うとのことで、今後の活躍が期待されます。

引き続き、山口課長から令和元年度に千葉県に大きな被害をもたらした台風15号、台風19号、10月25日の大雨の3つの災害について、パワーポイントで資料を示しながら、強風や降雨の状況、公共施設の被害状況、県の対応等について詳細な説明がありました。



滝浪善裕様



小池敏夫様



奥中智行様

講演では、まず国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課課長補佐 奥中智行様から「我が国の国土と河川事業について」と題して地球レベルの気候変動を踏まえた国内の水災害の対策について、ご講演いただきました。

ご講演は4項目にまとめられた配布資料に基づき進められました。まず初めの項目「令和元年度の主な水害」では千葉県に大きな被害をもたらした台風15号など今年度の災害による被害状況の説明がありました。この中で関東・東北を中心とした140箇所の堤防決壊を引き起こした台風19号では、12時間降水量で観測史上1位を記録した観測地点が120箇所もあったなど、今までに経験したことのない大量の雨が半日ほどの間に、広範囲に降ったことが降雨資料から解るとの説明がありました。

次に「我が国の国土条件」の項目では、世界の台風、地震、火山等の災害の発生状況で見ると、日本は国土面積割合（世界の約0.25%）に比べて、それぞれの災害が極めて高い確率で発生する位置にあること。また可住地の割合が少なく、人口密集地の多くが海拔0メートル地帯にあるなど災害に弱い特徴があることから、世界の中でも大きな災害リスクを抱えている国土であることが説明されました。3項目目「気候変動を踏まえた水害対策」では、地球温暖化などによる気候変動のスピードに対応した「事前防災対策」の加速化が必要だとして、降雨量の増加等を考慮した治水計画への見直しや、ハード・ソフト一体となってあらゆる対策を総動員する治水対策への転換を取り組むとのお話をありました。ソフト対策としては今まで洪水調節に使用されてこなかった利水ダムなどの活用や、水災害リスクの低い場所への移住や都市機能の移転、住宅開発の誘導など、関係部局と連携した取り組みを行っていくとのことでした。4項目目「来年度予算（河川事業）の対応」では、治水事業等にかかる来年度予算案の内容等について説明いただきました。

最後に、N P O 防災千葉の宮寄義昭会員、大野二三男会員から「被災から半世紀 45 災を振り返って～小櫃川の記録から見る水害への備え～」という演題でご講演いただきました。

まず大野会員から千葉県内で死者・行方不明者 19 人をかぞえ、家屋や公共土木施設などに甚大な被害をもたらした昭和 45 年 7 月 1 日の降雨による災害（45 災）について、降雨や被害の状況について詳細な資料に基づく説明がありました。

宮寄会員からは、この時、特に被害が大きかった小櫃川に絞って過去の水害とその後の治水事業について説明がありました。今回のちば河川交流会との協働事業の中で新たに掘り起こされた資料や地元の方から聞き取った内容も資料に含まれており、今後の治水事業を考えるうえで貴重な資料ですので、興味のある方は問い合わせていただき、活用を願いたいと思います。



宮寄 義昭 会員と 大野 二三男 会員

■ <語り継ぐ災害「地震津波災害」九十九里外房地域>

東日本大震災の千葉県での災害体験や過去の当該地域での被災状況などを子供たちにわかりやすく説明し、伝えることにより防災対策への関心を育み、手助けできるよう、主に小学生高学年を対象として、平成 25 年度から、「地震津波災害」にかかる出前授業を実施しています。

昨年 10 月 17 日に実施した旭市飯岡小学校での出前授業については、東日本大震災の際、学区が津波で被災したこともあり、新聞記者の皆さん等の取材を受けました。



産経新聞の記事でインターネット（ヤフーニュース）でも掲載された記事を以下に紹介します。

千葉県旭市立飯岡小学校（児童数 208 名）で 17 日、東日本大震災の記録や記憶を語り継ぐ防災教室が開かれ、全校児童が参加して地震や津波が発生する仕組みを学び、被災者の体験談に耳を傾けた。同校の学区は震災で県内最大の津波被害を受け、校舎は避難所として使用された。

防災教室は 8 年前の大震災当時、生まれる前か乳幼児だった児童らに津波被害のことを学んでもらおうと県の技術系職員らでつくる「NPO 防災千葉」の出前授業として行われた。

海岸近くの自宅で津波被害にあった同市下永井の宮本英一さん（70）は、津波にのまれて九死に一生を得た体験を語り、「一番反省している点は津波警報が出ても、自分だけは大丈夫だと思って避難しなかったことだ」と早めの避難の大切さを訴えた。・・・・（以下略）

10 月 18 日産経新聞（YAHOO JAPAN！ニュース）でも同記事が 10 月 17 日配信）

<令和元年度の実施場所等>

※ 今回の対象児童は飯岡小が 1～6 年生、他の小学校が 4～6 年生でした。

- ・ 10 月 17 日 旭市立飯岡小学校
- ・ 10 月 28 日 横芝光町立上堺小学校
- ・ 11 月 22 日 山武市立緑海小学校
- ・ 12 月 19 日 山武市立鳴浜小学校
- ・ (9 月 23 日) 大正寺（山武市本須賀）

受講者	221 名	（うち児童 208 名）
受講者	58 名	（うち児童 51 名）
受講者	83 名	（うち児童 76 名）
受講者	74 名	（うち児童 68 名）
受講者	25 名	（要請を受けて実施）

■ <防災訓練の実施>

令和元年8月30日に実施された千葉県県土整備部震災対応訓練にすべての土木事務所管内で参加し、NPO事務所で訓練結果の取りまとめに当たった4名の事務局員を含め、当NPOから合わせて66名が参加しました。訓練は各事務所管内の管理施設（河川、道路、橋梁、公園等）のパトロール、被害状況の報告などの情報伝達訓練を中心に行いました。

■ <土砂災害危険箇所点検の実施>

土砂災害防止月間（6月）の事業として行われる土砂災害危険箇所点検（通称 がけ点検）に当NPOでも積極的に取り組んでいます。その詳細は以下の表のとおりでした。

（実施期間 令和元年6月3日～6月28日）

土木事務所名	実施日数	点検箇所数	NPOの参加者数	土木事務所名	実施日数	点検箇所数	NPOの参加者数
千葉土木事務所	4	27	4	海匝土木事務所	2	32	4
葛南土木事務所	3	44	2	山武土木事務所	2	22	7
東葛飾土木事務所	5	52	5	長生土木事務所	1	86	6
柏土木事務所	2	22	4	夷隅土木事務所	4	67	4
印旛土木事務所	5	123	11	安房土木事務所	4	114	8
成田土木事務所	3	48	7	君津土木事務所	4	75	12
香取土木事務所	1	40	3	市原土木事務所	1	69	7
銚子土木事務所	2	20	4	計		841	88

■ <水防訓練への参加>

香取土木事務所が昨年7月2日に開催した水防訓練に4名、夷隅土木事務所が7月17日開催した水防訓練に11名、計15名がNPO防災千葉から参加しました。



水防訓練（香取事務所管内）

■ <歩くパトロールへの参加>

昨年8月の「道路を守る月間」において、土木事務所が実施した「あるくパトロール」に13地域で参加しました。NPO防災千葉からの参加は延人員で54名でした。

■ <急傾斜施設点検の実施>

平成28年度から急傾斜地崩壊危険区域・防止施設点検を受託しており、今年度は6土木事務所92箇所で実施中です。

■ <関東ふれあいの道パトロールの実施>

NPO防災千葉では平成23年度から「関東ふれあいの道」のパトロールを実施しています。今年度は3月10日に「九十九里の砂をふみしめてあるくみち」（JR長者町駅～太東埼灯台～九十九里浜～JR東浪見駅）を「東京オリンピック・サーフィン会場」の視察も行いながらパトロールします。